

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
期	I				II				III				IV			
育てほしい児童の姿	安心 成長 自立	<p><b>【4月当初の児童の姿①】</b> ・小学校生活への期待感をもっている。 聞 興味のない話題に対して、最後まで話を聞けないことがある。 話 環境の変化に戸惑い、自分の思いを上手く言葉で伝えられないことがある。 挨拶 全体では大きな声で挨拶できるが、一人では小さい声になることがある。</p>	<p><b>【育てほしい児童の姿②】</b> 担任、友達、担任以外の先生との関わりを通して、安心感を持ち、自己開放する。(安心) →自分の居場所を見つけたり受け止めてもらえたりすることで、気持ちが安定し、安心して思いを伝えようとする。 聞 先生や友達の話に興味をもって、最後まで聞こうとする。 話 困ったことを伝えようとする。 挨拶 思ったことや考えたことを自分の言葉で伝えようとする。 挨拶 いろいろな挨拶の仕方を知り、進んで挨拶しようとする。</p>	<p><b>【育てほしい児童の姿③】</b> たくさんの友達や異学年との関わりを通して、安心感を持ち、自己表現する。(安心・成長) →表情やしぐさ、動作、言葉などで自分の思いを伝えようとする。 聞 先生や友達の話に興味をもって、最後まで聞こうとする。 話 ペアやグループで話し合う中で、自分の考えを進んで話したり、友達の考えに感想を伝えたりしようとする。 挨拶 誰に対しても自分から進んで挨拶しようとする。</p>	<p><b>【育てほしい児童の姿④】</b> 上級生(2年生)や地域の人の関わりを通して、自信を持ち、自己発揮する。(成長・自立) →場面に合わせて自分の思いを一番適切に表現する方法を選んだり考えたりしながら、自分の思いを伝えようとする。 聞 相手の思いを最後まで聞く。 話 相手意識をもって話す。 挨拶 ペアやグループで話し合う中で、友達に分かりやすいように話したり、友達の考えを受け入れたりしながら、自分の考えをまとめる。 挨拶 誰に対しても自分から進んで挨拶する。</p>	<p><b>【1年生の終わりまでに育てほしい児童の姿⑤】</b>(2学年に向けて育てほしい児童の姿) 多くの人の支えに気づき、自分と友達のよさを実感しながら、よりよく学校生活を送れるようになる。(自立) →自分のよさや可能性に気づき、自信をもって意欲的に発信しようとする。</p>										
		<p>ともだちとなかよし、がっこうとなかよし 「どうぞよろしく」「なんていおうかな」 「よくきいて話そう」(国) 「10までの数」(算) 「うたっておどってなかよくなるう」(音) 「明るいあいさつ」「はりきり1年生」(道)</p>	<p>いきものとなかよし、はなややさいとなかよし、おもしろいあそびがいっぱい 「こんなものみつけたよ」「おおきくなった」「はなのみち」(国) 「10より大きい数」(算) 「すなやかたちやいろなあに」(図) 「めだかのめく」「元気でね」(道)</p>	<p>おいだよあきのテーマパーク、ふゆとあそぼう 「じどう車ずかんをつくらう」 「しらせたいな見せたいな」(国) 「たしざん」「ひきざん」(算) 「みんなで合わせて楽しもう」(音)</p>	<p>かぞくはなかよし、もうすぐ2年生 「これはなんでしょう」 「いいこといっぱい1年生」(国) 「もうすぐ2年生」(生) 「2年生に向けて」(学)</p>											
		<p><b>人</b> ・児童と一対一で関わる機会を多くもち、まずは1年担任に何でも話せる存在になる。 ・他の園から入学してきた友達と交流できるような学級レクを行う。また、遊びを通して友達に親しみ、自己開放することができるようにする。 ・複数の教員で児童と関わる体制をつくることで、安心できるようにする。(特に養護教諭とのつながりを深める。) ・2年生、6年生と一緒に学習活動をする中で、頼りになる存在に気付けるようにする。 ・縦割り班活動を通して、他学年との交流を深めることで、安心して過ごせるようにする。</p>	<p><b>もの</b> ・片付ける場所や片付け方が分かるように、写真や絵カードを活用する。 ・分かりやすく話を聞けるようにするために、実物や道具を用意する。 ・見通しを持って過ごせるように、1日の予定を時間割表に書いておく。</p>	<p><b>空間</b> ・児童の動線を考えた自由に動けるような教室配置にする。 ・いろいろなことに興味をもつことができるように、掲示物を工夫したり学習に関連する教具を設置したりする。 ・児童の目の高さに合わせて掲示物コーナーにする。 ・つぶやきを大切に授業を行う。</p>	<p><b>人</b> ・縦割り班活動を通して、他学年の知り合いを増やせるようにする。 ・隣のクラスや高学年など、人間関係を広げていけるようにする。</p> <p><b>もの</b> ・児童が飽きないように、教室の本を定期的に入れ替える。</p> <p><b>空間</b> ・自分達が学習しやすい方法を考えていく。 ・生活科コーナーを設置する。 一秋の自然物など</p>	<p><b>人</b> ・新1年生の存在に気づき、自信や進級への期待をもてるようにする。(体験入学) ・入学からここまでの成長には多くの人の支えがあったことに気付けるようにする。</p> <p><b>空間</b> ・生活科コーナーを設置する。 一冬/一秋の自然物など</p>										
		<p>○時間の工夫 ・園での生活リズムに合わせて、ゆったりとした朝の時間を工夫する。 ・1時間を15分程度に分け、児童の集中力が切れないようにする。 ・生活科や図工の学習など、2時間続きにしてじっくり活動できるようにする。 ・児童の思いや願いを取り入れながら、活動をしていく。 ・生活科を中心に他教科とのつながりを考えながら、合科的関連的に学習できるようにする。</p>	<p>○連休明けの配慮事項 ・児童が学校生活のリズムに慣れるよう、生活科や音楽、図工などを時間割に取り入れるなど時間割の組立てを工夫する。 ・学級レクや遊びの時間を十分にとることで、学校が楽しいという思いをもつことができるようにする。</p>	<p>○夏休み明けの配慮事項 ・4月当初と同じようにゆったりとした朝の時間を工夫し、友達や先生と触れ合う時間を十分にとる。 ・肯定的な声掛けをしながら、できることを増やしていく。</p>	<p>○来年度に向けて ・全教職員の共通理解を図り、受け入れ体制を整える。 ・連絡協議会において活動内容を検討し、子どもの様子について意識統一を図る。</p>											
<p>必要に応じて、園と小学校の訪問をお互いへ実施。連絡協議会を開く。(交流活動の事前打ち合わせ及び反省、情報交換)</p>																
家庭との連携	<p>・入学に対する保護者の不安を受け止め、1年間の活動内容や方針、予想される児童の様子を具体的に知らせ、学校と同じ方向性で取組ができるようにしていく。 ・通信に目指す子ども像を示したり、児童の写真を掲載したりして、保護者に学校のことについて理解してもらう。(写真から読み取れる児童の気持ち、教師のねらいと意図) ・学級通信で、学びの様子や友達との関わり等を発信し、保護者に学校での様子を知ってもらう。 ・こまめに保護者と連携を取り合い、信頼関係を築いていく。</p>					<p>・安心して学校生活を送るためには生活リズムを整えることが大切であることを伝え、協力をお願いする。 ・行事にむけての日々の取組の経過を伝え、児童の考えや気持ちの揺れを保護者と共に共有し、ともに認め励ましていくことで、一人一人の自信につなげる。</p>					<p>・1年間の成長を発表する会に向けて、内面的に成長した部分を中心にほめてもらえるように伝える。</p>					